



当レポートでは、パイプライン等のエネルギー関連資産を保有・運営する米国のMLP（共同投資事業の一形態）に関する情報提供を行います。

《米国MLP(マスター・リミテッド・パートナーシップ)市場概況》

	MLP		米国株		米国REIT		米10年国債利回り	WTI原油先物(ドル/バレル)	ヘンリーハブ天然ガス先物(ドル/百万BTU)
	トータルリターン指数	予想配当利回り	トータルリターン指数	予想配当利回り	トータルリターン指数	予想配当利回り			
2021年12月31日	1,138.58	7.95%	9,986.70	1.28%	28,625.44	2.50%	1.51%	75.21	3.73
2022年5月31日	1,456.06	7.18%	8,712.60	1.56%	24,904.74	3.28%	2.84%	114.67	8.15
2022年6月30日	1,252.87	8.40%	7,993.43	1.71%	23,136.73	3.55%	3.01%	105.76	5.42
前月比	-14.0%	1.22%	-8.3%	0.15%	-7.1%	0.27%	0.17%	-7.8%	-33.4%
年初来	10.0%	0.45%	-20.0%	0.43%	-19.2%	1.05%	1.50%	40.6%	45.4%
前年比	4.3%	1.10%	-10.6%	0.32%	-5.9%	0.74%	1.54%	43.9%	48.6%

(出所)ブルームバーグ

※MLP:アレリアンMLP指数、米国株:S&P500指数、米国REIT:FTSE/NAREITオール・エクイティREIT指数、すべて配当込み

《先月の米国MLP市場の動き》

6月のアレリアンMLP(マスター・リミテッド・パートナーシップ)指数は、前月末に比べて下落しました。

上旬は、中国で新型コロナウイルス感染対策のための行動規制が緩和され、エネルギー需要が回復するとの期待が高まったこと等から、MLP市場は堅調なスタートとなりました。その後は、インフレ抑制のため米連邦準備制度理事会(FRB)が金融引き締めを積極的に進めるとの見方から、株式市場全体が下落する中、MLP市場も軟調となりました。

中旬は、FRBが0.75%の大幅利上げを決定しました。積極的な金融引き締めが景気減速につながり、エネルギー需要が減るとの警戒感が次第に広がったことから、MLP市場は下落しました。

下旬に入り、MLP市場は反発する場面も見られましたが、景気減速への懸念が意識される中、上値の重い展開となりました。

《米国MLPトータルリターンおよび配当利回りの推移》

MLP・米国株・米国REITのトータルリターン指数

(2020年末=100)



MLP・米国株・米国REITの配当利回りと長期金利



(出所)ブルームバーグ (期間)2020年12月31日~2022年6月30日

※MLP:アレリアンMLP指数、米国株:S&P500指数、米国REIT:FTSE/NAREITオール・エクイティREIT指数、すべて配当込み

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている運用スタンス、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、当該銘柄の売買または保有を推奨するものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。



当レポートでは、パイプライン等のエネルギー関連資産を保有・運営する米国のMLP（共同投資事業の一形態）に関する情報提供を行います。

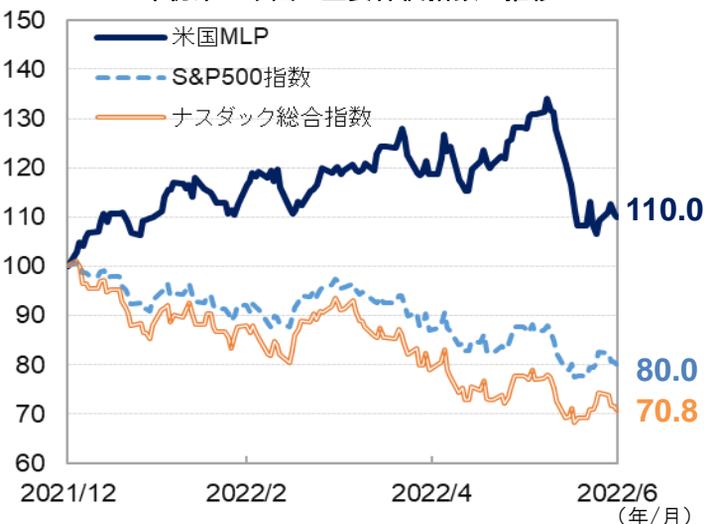
《先月の米国MLP・中流エネルギー企業関連ニュース》

- (6月5日)米国のエネルギー輸送大手のEnergy Transfer LP(ET)は中国の都市ガス大手China Gas Holdingsとの間で、25年間の液化天然ガス(LNG)の供給契約を締結。
- (6月8日)米テキサス州の液化天然ガス(LNG)製造施設フリーポートLNGで火災事故が発生。フリーポートLNGは米国のLNG輸出能力の約20%を担う。運営会社のFreeport LNG Development社(FLNG)によれば、火災事故により操業停止中のフリーポートLNGの完全稼働は2022年後半と見込まれている。
- (6月14日)天然ガスの輸送や貯蔵等を手掛けるDCP Midstream LP(DCP)はテキサス州パーミアン盆地の天然ガス集積・処理設備の買収で合意。買収額は1.6億米ドル。取引は2022年第3四半期に完了見込み。
- (6月16日)北米の中流エネルギー企業のTarga Resources社(TRGP)はパーミアン盆地で天然ガス処理事業を営むLucid Energy Groupの買収で合意。買収額は35.5億米ドル。
- (6月22日)液化天然ガス(LNG)関連事業を営むCheniere Energy社(LNG)はテキサス州のコーパスクリスティー液化プロジェクト・ステージ3の最終投資決定を行ったと公表。ステージ3プロジェクトはコーパスクリスティー液化天然ガス(LNG)施設の生産量を年間1,000万トン引き上げるもの。
- (6月29日)天然ガス輸送大手のWilliams社(WMB)はルイジアナ州ヘインズビル盆地の天然ガスを集積し、メキシコ湾岸へ輸送するためのルイジアナ・エネルギー・ゲートウェイ(LEG)プロジェクトの最終投資決定を行ったと公表。
- (6月29日)パイプライン輸送等の中流エネルギー事業を行うKinder Morgan社(KMI)はパーミアン・ハイウェイ・パイプライン(天然ガス・パイプライン)の拡張プロジェクトの最終投資決定を公表。稼働開始は2023年11月の見込み。

《2022年初来の米国MLPのパフォーマンスとバリュエーション》

- 足元で世界的に株式市場が調整する中で、MLP市場も利益確定の売りが多く見られましたが、年初来ではエネルギー価格上昇による投資家センチメントが改善したこと等から米国MLPは相対的に良好なパフォーマンスとなっています。
- 米国MLPのバリュエーション(株価キャッシュフロー倍率)は、2022年6月末時点では4.8倍と、過去平均を下回って推移しており割安な水準と考えられます。

年初来の米国の主要株価指数の推移



(出所)ブルームバーグ (期間)2021年12月末～2022年6月末
 ※2021年12月末時点をもととして指数化、すべて配当込み
 ※米国MLP: アレリアンMLP指数

米国MLPのバリュエーション*



*バリュエーションは株価キャッシュフロー倍率(=直近株価/予想キャッシュフロー(当年度))、1株当たりのキャッシュフローの何倍まで株価が買われているかを示す

(出所)ブルームバーグ (期間)2017年6月末～2022年6月末
 ※米国MLP: アレリアンMLP指数

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている運用スタンス、目標等は、将来の成果を保障するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、当該銘柄の売買または保有を推奨するものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。